

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

議長から登壇の許可をいただきましたので、14番末藤正幸の一般質問を始めたいと思います。モニターをお願いします。

（全般モニター使用）私の今回の質問は、1番、市政について、2番、教育関係について、3番、道路関係についてを質問したいと思います。

それでは、早速通告順に従いまして、質問をさせていただきます。

まず、1番目に被災地支援についてのお尋ねでございます。

きょうで東日本大震災が発生して1年と9カ月たちました。そんな中で、被災地の皆さんは寒い仮設ハウスの中で2回目の正月を迎えようとされておるわけでございます。この前のテレビだったかと思いますが、被災地の方のインタビューがあっておりましたが、被災地の方いわく、この震災を全国の皆さんは忘れないでほしい。また、この被災地へ足を運んでほしい、来てほしいという切実な（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

少し静かに。

○14番（末藤正幸君）（続）

声を出しておられました。

そんな中で、武雄市といたしましても、ことしもいろんな被災地支援を行っていただいたわけでございますが、ちょっとモニターを映します。これは、この前の7月23日、東川登小学校キッズボランティアということの出発式の写真でございます。これは、仙台市立の六郷小学校と交流をされて、いろんな経験をされて帰ってこられました。

次に、これは、チーム武雄ボランティアですね。公募により陸前高田市に支援に行つてこられました。陸前高田市で開催された全国太鼓フェスティバルという大会の中の運営を支援されたということでございます。そういうことで、いろんな支援に取り組んでいただきました。

また、職員も2名の方が向こうに派遣をされております。そういうようなことで、これは本当に継続して支援をしていく必要があるだろうと思うわけでございますが、今後、被災地支援についてどのように取り組んでおられるのか、また、これに対する原資といたしましうか、資金はどのように計画をされているのか、まずお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

モニターをかえてほしいんですけれども、（モニター使用）ちょっとダブる部分があるかもしれませんが、このように我々は単に1回行ったではなくして、こういう支援交流の皆さんとの再会であります。これは陸前高田なんですけれども、この中で、やっぱり驚く

べきなのは、80歳になられた中山さんがいらっしゃるということなんですね。ですので、こういう世代を超えて——ちょっと言い方はどうか知りませんが、立場を超えて、このように参加をしてくださるということは非常にありがたく思っています。

ことは、もう、何て言うんですかね、末藤議員さんも行われましたけれども、瓦れきの撤去とかという作業は一段落をして、陸前高田市長と話をしたときに、ぜひこの太鼓フェスティバルを盛り上げてほしいということでありましたので、地元のニーズを踏まえて太鼓フェスティバルの支援に、市民の皆さん、そして職員が伺ったところであります。

あるいは、先ほどありましたように、東川登小学校が、これは中心になっていますけれども、実際現地に行って、同世代の子たちと交流を深めるということは、これは非常に大事だということで行って、これは東川登小学校の皆さんたちから、私も報告を承ったところであります。

あと、うち、職員が2人、1年間出しております。以前の秘書官でありました古賀龍一郎が陸前高田市に派遣職員として、先方のフェイスブック化であるとか、広報であるとか、もう市長の右腕になっていて、非常に心強く思っております。多くのものを、また武雄市に持ち帰ってくれるものと期待をしております。

そして、今度、市長の左腕になっておる上田哲也でございます。彼はサガテレビでも出ましたけれども、商工観光課で、彼は人柄で勝負をしているようです。ですので、非常に武雄市は陸前高田を初めとして、本当に評価が高い状況になっているようで、以前、たまたま武雄温泉駅に私がいたら、ちょっとこれは存じ上げていない市民の方から、仙台に行ってきたと、仙台に行って、そこの地元の松島だったかな、どこから来られましたかと聞かれたときに、武雄から来ましたと、どうせ武雄市で知られとらんもんねと思って聞いたら、あの我々の被災地支援というか、我々の被災地に一生懸命取り組んでおられるところですねということで、それは我々も言われますよ、行けば。言われますが、そういう一般の市民の方が、そういうふうに分が観光で行って、その東北の地でそのように言われて、非常に誇らしく思いましたということをやられて、ぜひ市民の方からも、被災地支援は今まで以上に続けてくださいということをや、市民から私は伝えられました。

これ、非常に実は心強くうれしく思っていて、やっぱり武雄市民はすごいなと思いましたよ。普通はね、もうそこまでせんでもよかろうもんでありますよ、あがん遠かところ。しかし、やっぱり我々の市民の気持ち、議会の気持ちが、やっぱり伝わっていると。これはね、婦人会も一生懸命しよんさっですよ。一生懸命しよんさっ。ですので、我々市民だけじゃなくて、そういう各種団体ですね、商工会議所とか商工会とか、もう一生懸命されていますので、これを閉ざすことなくやっていきたいと思っていて、具体的には、あちらの、被災地のニーズに即したことをやっていこうと思っています。

例えば、チーム武雄による市民ボランティアや児童・生徒の派遣、あと、修学旅行も考え

たいですね、修学旅行も。まだね、京都とか大阪とか行かんでよかですよ。もう京都のお寺は、我々大人になってからで十分です。ですので、それよりも実際被災地に行って、やっぱり交流をしたり、こう感じる。これね、東川登小学校の生徒諸君の話聞いて、もう痛切に思いました。ですので、足りんぎ、やっぱり議会に協力をお願いして、これは出そうということも思っていますので、ぜひ、武雄高校はね、あそこはもうお勉強学校やけんが、もうよかけんですよ、中学校、小学校はちょっと厳しいかもしれませんが、ぜひ中学校、市内の中学校の市立中学校の先生たち、校長先生にはぜひ御理解をしていただきたいなと思っています。

そして、福島、昨年行いましたけれども、被災地から子どもたちを受け入れるキッズタウンステイをやっていききたいと思っていて、この職員の継続については、陸前高田から要請が来ております。要請が来ておりますので、これは積極的に応じてまいりたいと思っております。ですが、非常に厳しい環境なんですね。これは2人から、上田、あるいは古賀から聞いても非常に厳しい環境でもありますので、これはよく相談をしてまいりたいというふうに思っております。ただ、その中でもやっぱり行きたいという人間が出てきているということについては、これも非常にうれしく思っておりますので、そういった気持ちも大事にしたいなと、このように思っております。

最後になりますけど、継続をして我々ができることを最大限行っていくということが、我々の被災地支援に対する基本的な姿勢であります。

○議長（杉原豊喜君）

経費はよかですかね、経費。樋渡市長

○樋渡市長（続）

議長さん、すみません。今、経費については、寄附金が、例えば、被災が起きた22年は、寄附金が473万円集まりました。そして、支援事業費として126万円組みました。23年度は411万円寄附金が集まって、支援事業費で926万円組んでおります。そして、現在なんですけれども、寄附金が15万円になっていて、支援事業費は402万円ということで、計、寄附金が900万円集まっていて、支援事業費に1,456万円支弁をさせていただいているところであります。こいでよかですかね。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうもありがとうございます。いろんな説明をしていただきまして、本当に現地に足を運んでいただく、そういう支援を行っているということで、ありがたく思っております。

そしてまた、今、2名の職員の派遣、本当に現地で頑張っておられるようでございますが、この職員の派遣というのをどこまで続けていかれるのか、その辺をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと難しいんですけど、これを永続してというのは、ちょっとうちも小規模自治体で無理なんで、少なくとも3年間はやっていきたいなというふうに思います。やっぱり蓄積というのも大事なんですよ。2年だとなかなか蓄積ができませんので、3年かなと思っています。

それと、あと考えたいのは、1年というのはやっぱり長いんですよね。いろんな自治体からしても、1年は我々だけなんです。長いところで大体半年です。ですので、そういったことも、ちょっとやっぱり柔軟に考えていかなきゃいけないということを思っています。石の上にも3年と思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当に職員の方、向こうで、現地でなれないところで本当に頑張っていただいております。そういうことで、本当に1年間というのは長くて大変かと思いますが、3年というふうなことでございますので、（発言する者あり）いやいや、半年でも交代をしていただきながら、計画をしていただければというふうに思います。本当にこの被災地支援というのは、とても大切なことであり、本当に復興の一助となるものでございますので、今、市長が申されたとおり、継続して支援をお願いしたいと思っております。

それでは、次の質問に移ります。

次に、リフォーム事業ですね。

この事業というのは、住宅リフォーム緊急助成事業補助金というようなことで、3カ年計画の事業でございます。まず、この基本助成というのが補助対象工事費50万円以上の15%を助成、最高限度額は20万円というようなことでなっております。23年度から3カ年というところでございますので、もう24年、そして来年の25年までという計画でございますが、非常にこの事業は人気がありまして、申し込みも多いと聞いております。

そしてまた、町の職人さんも非常に少なくないでしょうか、忙しくなって、さっと言うて、すぐ来らっさんとか、そういう状況というふうに聞いております。

この事業の現在の利用状況、それと、もう25年前倒しで24年に結構事業費も使ったということでございますが、来年度はどのような取り組みになっているのか、その2点、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

リフォーム事業でございます。これは、県費を使った経済対策でございます、武雄市としては上積み補助はしていないということでございます。

全体額を申し上げますと、平成23年度7億円、24年度10億円、25年度は3億円という展開でスタートいたしました。余りにも好評でございます、今年度10億円が追加されております。さらに、前倒し等を行いまして、結果的には23年度は7億円、24年度は20億円、25年度は3億円という、計30億円の事業展開となっております。

武雄市における効果でございます。23年度では、216件の4,300万円の実績となっており、今年度の予定額といたしましては、1億2,500万円、645戸を想定いたしております。なお、11月末現在において、572件の申請でございます、進捗率といたしましては、89%となっております。

また、経済効果といたしましては、大体補助額の10倍程度が見込まれておるところでございます。

また、さらに、来年度の予定でございます。この3億円でございます、武雄市の配分予定は約2,000万円ということで、100件程度を予定しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

もう来年度は100件程度ということでございますが、非常に人気がありますし、経済対策にも非常になっておるようでございますので、これは要望して、もう少し来年度上乘せというのは、まだわかっておりませんか。それとも、もうこれでぴしゃっと打ち切りでございますか、ちょっとお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

さらに要望ということでございますが、今年度、その要望を受けて10億円を積み増したということで、県といたしましては、これ以上の支出はできないということを聞いております。したがって、30億円で打ちどめになるということになると思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

それでは、次の太陽光発電の質問をいたします。

福島第一原発の地震津波による事故発生後、市民の方の自然エネルギーによる発電の意識

が高まり、また、国の制度等も改正されまして、太陽光発電のパネルの設置が目立って多くなったことは事実でございます。この住宅用太陽光パネルシステムの設置状況の写真でございます。これが市のほうからいただいた資料を表にしたものでございますが、太陽光発電システム設置補助金の推移ということで、平成24年11月30日現在であらわしております。平成21年が補助件数73件、22年が168件、23年が263件、平成24年が、11月30日現在で189件、現在ではこれが199件の申し込みになっているという報告でございました。それで合計の、11月30日現在の合計で703件、補助総額が21年度から合わせて6,409万1,000円というデータをいただいたわけですが、これ、非常に人気があって、今度12月にも40件分の補正も提案をされているところでございます。

この補助事業ですね、今年度240件になるわけですが、非常に人気が高いわけで、まだまだふえる可能性もあるわけですが、来年度はどのように考えておられるか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

来年度はわかりません。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

来年度はまだわからないということでございますが、国、県の補助金というのは、ずっと残っていくのか、それともそれもわからないのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、ちょっと環境省に確認をしたんですが、政権交代の影響等があつて、ちょっとそこはわからないんですよ。基本的に県も我々も、これは国の政策としてやっぱりやっていかなきゃいけないという側面、100%じゃないですけど、ありますので、そこはちょっと国の動向を見たいと思っています。変わることは、もう确实、余り言うとはストップするかな、思いますので、そういうふうには思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

非常に人気がある事業ですので、ぜひそういうふうな補助金も加勢をしていただいて、武雄市の電力の地産地消を進めていただきたいと思います。

それでは、次に移ります。

市政についての最後の質問でございますが、市営住宅についてお尋ねをいたします。

市営住宅の建てかえ、どのような計画で進められておられるのか、お尋ねをします。今現在、和田住宅は建設中でございますが、今後どのようなようになるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

市営住宅の建てかえでございます。

現在、和田住宅を建てかえておりまして、今度の2期で終わりますけど、この工事が25年度で完成する予定でございます。

その後の予定でございますが、現在のところ大野住宅について予定しておりまして、26年度以降ということになるかと思えます。まだ計画段階であるために、居住者についての説明は行っておりません。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、建設中の和田住宅は25年度完成ということでございますが、ここに今、次にというようなこと言われました大野住宅、これ山内町の大野地区にありますけど、大野住宅の写真でございますが、まだ今、計画というようなこと言われましたが、この大野住宅について、やはり土地も狭いし、ちょっと入り口も狭いということもあります。ただ、私どもが一番期待しているのは、これが山内町に対しての定住策といいましょうか、なかなか山内町も人口が減っているわけでございます。そういうようなことで、住宅建てかえのときに、戸数でもふえれば、幾らかでも住宅はふえるのかなというような期待もしているわけでございますが、この住宅の計画の概要、幾分わかっておれば説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

現時点においては、まだ明確になっておりませんが、大野住宅の周辺を見てみますと、低層住宅が並んでおります。したがって、高層化は無理だなというふうに判断しております。

また、敷地面積がそんなに広くございません。したがって、基本的には現状の戸数16戸を考えていますが、敷地の関係上、高層化できないということと、敷地の面積等の関係から、あるいは駐車場の整備等入れますと、今の時点では明確な答え、はっきりとした計画については申し上げることはできません。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。できれば、それは確かに戸数をふやしていただければと思いますが、そういう敷地の要件とかいろいろありますので、それは検討課題としてよろしく願いをいたします。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

次に、教育関係の質問でございますが、まず学校給食についてでございます。

質問は、まず給食の残菜——残飯といいますかね、それについてお尋ねをしたいと思いません。

学校給食、これは完食が一番いいわけでございますが、病気で欠席されたり、いろんな理由で、やはり残菜も残るわけでございますが、武雄市内での残菜の量、これは幾らぐらい、今、大体発生しているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

武雄市では、平成24年の3月、ことしの3月ですが、第2次武雄市食育推進計画という、こういう計画を策定いたしておるわけですけれども、この中で御指摘の学校給食の残菜量につきまして目標を立てております。これが、目標年次が平成27年ということでございますが、1人一日当たりということで、5グラムに設定をいたしております。この計画をつくりました当初は、小・中学校平均いたしますと7.7グラムということでございましたけれども、これを小学校と中学校に分けて申し上げますと、小学校で6.1グラム、中学校で11.5グラムということでございますけれども、小学校では、平成23年度において既に5グラムということになりまして、目標を達成しているという状況でございます。

また、中学校におきましても、7グラムということになっておりまして、目標数値に近づいているというのが状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

これは山内東小学校の5校時目の給食風景というようなことで、許可をいただいて写真を撮ってきたわけでございますが、本当にこういう状況だと残菜は残らないだろうなというぐらいに、子どもたちも喜んで食べておられました。そういう中で、やはり残菜はこういうふうにあるんだなということで思ったわけでございますが、平成22年度からすると、23年はそ

ういうふうが減ってきたということでございます。

そういうふう目標に近づいてきたわけでございますけれども、この減らす努力というんですかね、残菜をなくす努力というのは、どういうところでそういう取り組みをされているのか。先生たちの取り組み、調理の仕方の取り組み、味つけ等いろいろあると思いますが、どういうところを努力して目標達成といいたいでしょうか、そういうふうに進んでおられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

5校時の給食風景ということで写真を出していただいております。御存じのとおり、正規の時間数じゃないわけでありましてけれども、5校時給食ということで、誰でも給食、食育を意識して取り組もうという中で、先ほどの残菜量の減少にもなっているところでございます。特に、やはりありがたいことに自校給食という形をしてもらっておりますので、生産者の方も知っていたり、あるいは調理をしていただく方も知っていたり、つくっていただくことも見られるというようなこと、そういう感謝の心を片方にありながら、実際には温かいものが食べられるというようなことで残菜が減ってきているというふうに思っております。

ただ、やっぱり経過を見ますと、小学校のときに残菜が多かった場合は、成長して今の中学生でも、若干その学校によって違いがあるわけですね。ですから、そういう意味では、やはり小さいときからそういう形でしっかり食育をしていくということの大事さを感じておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

残菜が残っているのは現実でございますが、この残菜の処分はどのようにされているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

処分でございますけれども、基本、生ごみとして出しているという実情でございます、一部では生ごみの堆肥化ということも取り扱っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

堆肥化も取り組んでいるということでございますが、やはり燃えるごみ処分ではなく、飼

料とか、そういうふうな堆肥化、そういうこともぜひ取り組んでいただいて、教育の一環として利用していただければというふうに思います。自治体ではいろいろ調べてみますと、生ゴミ等で処分されているところも結構あるようでございますが、量的に少ない部分は、そういうふうな堆肥化というのがベストじゃないかなというふうに思うわけでございます。

それと、あと1つお尋ねでございますが、山内町の小・中学校、26年4月から自校方式をとっていただくということで、また残菜の量も減ってくるのではないかなというふうに思うわけでございますが、山内町内には3校の分校があるわけでございますが、自校方式になってくると、今はセンター方式で車を使って配達といいましょうか、配送をされておりますが、自校方式になっても、分校まで給食室をつくるというわけにはいかないと思いますが、その配送はどのようにされるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

御指摘のとおり、分校まで自校方式というのは非常に難しゅうございますので、分校につきましては、本校で調理した後に配送車で配送していくという体制をとってまいりたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。

次に、教育関係の2番目、安全・安心についてお尋ねをしたいと思います。

これは、三間坂のJR線の側道線といえます市道でございますが、これが中学校、小学校の通学路になっているわけでございます。これも以前、危険箇所調査の中で、この側道に白線を引いてください、路側帯のところの両側に白線を引いてくださいということで、歩く場所、それと車が通る場所、そういうふうなところを仕分けしてくれというような意味で白線を引いてくださいという要望があつておまして、私も一般質問で一遍取り上げたこともあると思います。この道路、なかなか白線が引けていないわけでございますが、ここの道路には白線は引けないわけでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

通学路の安全確認につきましては、道路事情等ございますので、私ども教育委員会、それから学校、それから保護者の方、建設課、土木事務所等々の御協力をいただきまして、安全確認を毎年させていただいておるところでございます。その結果、道路管理者に要望すべき

部分につきましては要望いたしておりますけれども、ここ、まだやっぱり優先順位等々もあるというふうに思いますので、危険な場所につきましては、管理者にまず要望していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

白線ですよ。

〔14番「白線」〕

白線ですよ。

〔14番「路側帯の白線」〕

ここですよ。白線引きます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

それでは、ぜひお願いしたいと思います。

もう1つ、すみません。これは、山内東小学校の校門の前の歩道の状況でございます。以前は校舎の中にあつたセンダンの木というのですかね、これ、大木でございますが、今度、工事をされまして歩道をつけていただきました。それで、この大木が歩道のところのちょうど中心のところの位置になって、非常に通行の妨げになって、せっかく歩道できたのに通行の妨げになっている、そしてまた、見通しもききにくいわけでございますが、この木も学校の先生等にもお聞きはしましたけど、非常に大きな木だからというようなことで残したということをお聞きしました。この木は、やはり倒せないんでしょうか、伐採できないんでしょうか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

それを私たちに言われてもですね。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

どうでしょうか。よければ、ぜひ伐採していただきたい。それは学校等とも相談されると思いますが、なかなかこれが、何でこう出したかという、誰でも答え出し得んわけですね。それで、きょう、ここに出して、皆さんこれをモニター見ていただいた方に、どちらがいいのか判断をしてもらおうかなということを出しました。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、この状態で切ったら、また独裁とかワンマンとか言われますよ。だから、これこそ地元でまとめていただくのが、議員の僕は役割だと思っていますので、それはちょっと地元で、どういうまとめ方があるかというのはいろいろあるとは思いますが。ですので、ちょっとまとめてね、でね、やっぱりこれ聞いたほうがいいのは、あれなんですよ、実際、ここ本当に使ってくださっている子どもたちと、その地域住民の皆さんたちなんですよ。確かに僕もここをたまに走りますけど、ただ狭いだけじゃなくて見通しがね、これで遮られているというのは、僕もここは何回か通って、そこは僕も痛感していますので、気にならないように地元でまとめてほしいなど、こう思います。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

わかりました。そういうことで質問を上げました。

次の質問でございます。

これは、11月23日の佐賀新聞の記事でございます。これ、いじめ緊急調査の結果の記事ですね。「いじめ半年で14万件超 11年度の2倍に急増」と、これは調査のやり方とかいろんなことで、こういうふうになったというようなことではございますが、赤い部分を読みますと、「昨年10月に大津市の中2男子が自殺し、その後、大津市の教育委員会のずさんな調査実態が問題化。文部科学省は今年8月1日、すべての国公私立の小中高などに、今年4月～9月に把握したいじめの件数を調査するように通知した。」というのが、いじめ緊急調査でございます。

その記事でございますが、質問でございます。武雄市内の小・中学校でのこの調査というのは、どのような報告をされたのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

武雄市でのこれまでの調査では、報告したのは1件でございます。ただ、これまでの質問にもありましたように、どこからという境目のないのが実際のいじめの実態でございます、そこは十分注意をしているところでございます。

地域格差という言葉がここにあるわけでありまして、統計上の地域格差はあっても、実際のいじめ自体には、そういう格差というのはそうはないだろうというふうに思うわけでありまして、そのあたりは、こちらも注意して指導をしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、1件ということですが、本当に少なくて何よりでございますが、今、教育長も少し触れていただきましたが、その日の次、第2面にですね、11月23日の佐賀新聞第2面のここに書いております「ばらつき」というようなタイトルの中の、「県教委は今回の調査に当たりアンケートの見直しに着手」云々と書いてあります。「ただ、件数は昨年度1年間の78倍にもなり「これはいじめではないのでは、という内容もあるかもしれない」と明かす。1,000人当たりの件数が1.3件で、福岡県に次いで2番目に少ない佐賀県教委。従来通り、学校で教員数人が協議していじめと判断した場合だけ報告したといい、担当者は「精査した結果。やり方を変える予定はない」。大きすぎる把握件数のばらつきに、積極的な報告を求めている文部科学省でさえ「異常状態。調査の信頼性に関わる」（幹部）と戸惑いを見せる。」という記事になっておりましたが、このことについて、教育長はどのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大なり小なり、いじめは経験してきているわけでありましてけれども、特に生命とか身体にかかわるような重大な事案というのは非常に心配するわけでございます。そういう意味では、別の調査では、小学校62件、中学校170件、高校41件というような、重大ないじめというような対応もされているところもあるわけでありまして。

ただ、問題は、やはりそれをいかに早く察知して対応できるかということだというふうには思っておりますので、そのあたりを指導しているというところでございます。この数値の極端な違いについては、文部科学省のほうでも検討されるということが出されておりますので、いずれそんなに違いのない正式な、正確なというのは非常に難しいかわかりませんが、調査の方法等も考えていかなければいけないだろうと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これ、あれですかね、このいじめ緊急調査はあれでしたっけ、学校の教職員に聞いているでしたっけ。

〔14番「そうです」〕

子どもたちに聞いている……

〔14番「じゃなく」〕

こんな調査なんかだめですよ。わかるわけじゃないじゃないですか、そんな。あのね、子どもたちに負担のかからない形で聞くというのは、これは僕はありだと思うんですよ。絶対に個人情報秘匿した上で、子どもたち一人一人に聞くというのはありだと思うんですけども、教職員に聞いてもわからないし、また、これ無理な負担をふやすだけです。これはね、文部科学省も文部科学省だし、報道するほうも報道するほうだと僕は思いますよ。そうじゃなくて、これ、大事なのはね、やっぱり、例えば、朝長議員さんは毎朝、あるいは毎夕、立たれていますよ、武雄市中学校の前に。山口等議員さんは自宅の前の向かいのところで毎朝立たれていますよ。病魔に闘いながらも立たれていましたから、もう今、打ち勝っていますけど、ね。ほかの議員さんたちも、全部は言いませんけれども、そういうふうになされていて、そこでどういう光景があるかという、やっぱり声ばかりよんさっですもんね。そいぎ、気づいたらやっぱり声をかけるというのが、大人の役割なんですよ。これ、本当は家庭の役割なんですね。家庭の役割でも、なかなかそこは今のところうまくいかないというのがあるんで、やっぱり子どもたち言いにつかですもんね。私もいじめを受けた経験あつとですよ。いじめたこともありますけど。いじめを受けたときに、やっぱり親には言いにつかですもんね。そいけんが、そいはやっぱり身近に接する大人が、おじさんが、おばさんが、やっぱり何かあつたとて、わかつですもんね。

何でそういうふうになり立つたかという、私は時間ができれば、武雄中学校とか、例えば、川登中学校とか北方中とか行っています。行って、授業中でもありながら、がらつてあけて中に入っていきます。そいぎですね、やっぱり問題のある子がいる教室でわかるんですよ。わかる。そいぎ、後で先生に聞くぎんた、やっぱりそこはやっぱりいじめのあるですもんねて言うわけですよ。そいけんが、そういうふうになつて皆さんたちに学校に入つていけとは、そこまで言いませんけれども、自分がやっぱりできる範囲で、黒岩議員さんもしよんさっですもんね。北中の生徒さんとかに、やっぱり声をかけよんさっですもんね。そういうふうになつて、やっぱり声をかけるということが、そこに、ああ、社会とつながつているんだて、大人とつながつているんだて、やっぱり見守られているというのが、無意識でも入つていくというのが、僕はすごく大事だと思っていますので、この調査を全部否定するわけじゃありません。文部科学省の焦りも、教育委員会の焦りもわかります。わかるけれども、それ以上に声かけとか、そうすると、子どもたちが反応すつごとなつですもんね。まず我々が心ば開けば、なります。私も数年前、そういう話がありました、いじめられています。そいで、小学校全部回りましたもんね。そいで、やっぱりいじめの減つていったというのでもあつわけですよ。そいけんが、まずは子どもたちの心を開かせるためには、我々一般の大人が行つて、やっぱりその心を開くというのが絶対、このいじめ問題ではまず大事だということを痛感しております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、答弁いただきましたが、軽微なそういういじめともわからないような、そういうことから大きいじめにつながってくる場合もあるわけで、そのシグナルというのを、やはりよく見きわめて、今後、教育委員会としても対応し、学校の先生にもそういう指導をぜひお願いしたいというふうをお願いいたします。

次に、道路関係の質問に移らせていただきます。

次に、国道35号線S字カーブ改良についてでございます。

御存じのとおり、このカーブ、西谷峠の魔のS字カーブでございます。これ、御存じのとおり、長年の市民の念願がかない、また、地権者の協力もありまして、この前から一部着工がなされております。これは、一部着工、今、工事用の仮設道路というので迂回路をつくられたところの写真でございますが、いよいよ着工になって、市民の期待も大きいわけですが、この着工を迎えて、市長はどのように、今、思っておられるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは何回も申し上げましたけれども、私がまだ霞が関で国家公務員をしていたときに、杉原、当時の議員さんですよね、あそこにいますけど、この方が本当に時間をオーバーして西谷峠の改修というのを切々と国土交通省であるとか、我々総務省の人間に訴えられていたんですよ。訴えられたんです。普通はここまでせんすもんね。だけど、西谷峠は、もうこれが認められんぎ帰られんて言いよんさったですよ。まあ、帰いよんさったですけど。それは公務がありますからね。ですので、そういうふうにずっと山内町民、あるいは町議の皆さん、これは末藤議員さんも入りますし、浦さんとか大渡さんも入りますけれども、そういう町民の皆さんたちの熱意、総意が、この西谷峠の改修を動かしたというのが1つの側面。それと、2つ目の側面が、地権者の皆さんたちの、本当温かい合意なんですよ、地権者の皆さんの。ですので、これがまた大きな要因と。

そして、工事がやっぱり始まったすもんね。始まったら、やっぱりみんなが早く迂回路つくってほしいとか、広げてほしいというのが、直接我々のほうに入ってくるようになったんですよ。やっぱり動き出したということですよ。

これも、引退された古賀誠先生が一生懸命なんですよ。そいけん、国会議員もよかとと悪かととようおるなと思ひまして、本当に頼りになる人とならん人と、ですので、やっぱり町民、市民、そして心ある国会議員の皆さんたちとかが動かして、やっとな歩ついたということだと思いますので、これはちょっと安全を確認しながら、しかしながら、一日でも早い再

オープンというか、というのはやっぱりしていきたいなというように思っていますし、本当にこれは万感の思いです。本当うれしく思っていますので、ここが魔の峠と呼ばれないようにということと、やっぱり、例えば、うちの合併はもう唯一の成功例だと思っていますけれども、北方と武雄というのは、こういう峠のなかけん、心理的にも何となく近かいですよ。しかし、山内の場合は、心理的には近いですよ、近いけど、物理的にこういうのがあるけんですよ、あるけんが、どうしてもやっぱり一体感とかというので言うと、これが妨げになっとなつわけですよ。ですので、これをやることによって、開通することによって、本当の意味での1市2町の、私は合併というのは達成されるということを思っていますので、これはもう私も力を注いで、来週また国土交通省に行ってきます、これ。行ってきますので、これはまたお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

本当にもう市長のおっしゃるとおりで、本当にやっここまで来たなというふうに思っております。本当にありがとうございます。本当に皆さんの協力のおかげだと思います。

ただ、まだ私どもにも進捗といいたいでしょうか、いつごろ終わるとというのが、まだ全然知らされてないわけですが、そういう工事関係、完成等含めまして、今、どの辺まで市として捉えられているのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

いつごろの完成かというふうなことですけど、地権者の方の御協力をいただきながら、用地交渉を進めておるところでございます。完成予定につきましては、用地買収等、事業実施の環境が整い次第、早急に進めたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

環境が整い次第で、まだ予定はわからないということですが、そしたら、今、用地買収はどれくらい進んでいるのか、おわかりだったらお示してください。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

現在の用地買収の状況でございますけど、平成24年、ことしの11月時点でございますけど、関係者ベースで6割程度進んでおります。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

今、6割ぐらいが買収済みだということですが、後は地権者さんの協力だと思います。その協力を促すためにも、ぜひ市当局からも協力をしていただいて、何とか早く買収が進みますように期待をしますので、よろしく願いいたします。

次は道路関係の、次は県道でございます。

県道も、山内町内5本ぐらいありますが、少しずつでございますが、改良を進めていただいております。この前は——この前といいますか、今年度は犬走地区の嬉野線も改良がある程度済んで、もう少し舗装まで済めば完了というところまで着きました。非常に見通しもよくなってきたところでございます。

これは、県道相知山内線ということで、清本鉄工の前を通る県道でございます。これも鳥海地区の中央部までは完成しているわけですが、あと、北の方向の武内のほうまでが、まだ全然手つかずでございます。そういうことで、非常に狭くカーブも多いというようなことで、地元からも早期完成をということで要望されている箇所でございます。

この前、お話を聞きましたところ、何かここの県道も工事着工に向けて動き出したというようなことも聞き及んでおるわけですが、この辺、工事の内容等について、わかっておれば御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

県道相知山内線につきましての現状でございますけど、本年度、清本鉄工側の3区が着手になりました。この3区と申し上げますと、市道鳥海長谷線交差点から椿原のため池までの680メートルでございます。現地の説明会につきましては、今月18日に開催される予定でございます。

本年度分としまして、年度末までに用地測量と丈量図の完成を予定しております。この3工区につきましては、平成25年度から用地交渉に入り、29年度完成の予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

そしたら、事業採択を受けて着手というようなことで、25年度から買収にかかれるということですが、大体、総事業費はどれくらいになつておるかわかっておるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

総事業費につきましては、4億6,800万円でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

はい、わかりました。29年度には完成予定ということでございますが、地元の方も用地買収にはもう十分協力すると言っておられるようでございますので、滞りなく完成することをお祈りするわけでございます。

もう1つ、県道でございます。これは梅野有田線、これ、宮野地区でございます。以前、浦議員も質問されておりましたが、これは完成した部分でございます。北側のほうですね。そして、完成していないところが、有田側のほうの部分でございます。この道路改修、今、用地買収とかで家屋移転の買収等も進んでいるようでございますが、この工事の進捗状況をお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

成松山内支所長

○成松山内支所長〔登壇〕

武雄梅野有田線につきましてでございますけど、事業箇所につきましては、山内町宮野の喫茶ミニの前から水尾入り口までの約550メートルでございます。

現在、家屋移転の補償と用地買収等を進めており、平成24年、今年度中にはほぼ完了する見込みでございます。

この区間の全体事業費につきましては、5億円となっております。

進捗状況は、平成23年度末で23.8%、平成24年度末の見込みで57.8%の予定でございます。

○議長（杉原豊喜君）

14番末藤議員

○14番（末藤正幸君）〔登壇〕

わかりました。速やかな完成をお願いするわけでございますが、早く済むように市側からも働きかけ、また、協力等よろしく願いして、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で14番末藤議員の質問を終了させていただきます。